Panasonic®

取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番 SC-HTB15

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」(30 ～ 33 ページ) を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

HDMI

目次

「安全上のご注意」を必ずお読みください。（➜30～33ページ）

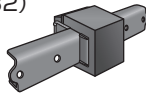
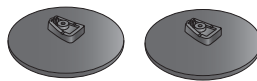
はじめに

準備する

楽しむ

困ったときは？ 他

本書内の表現について
本書内で参照していただくページを (⇨ ○○) で示しています。

音のエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

本機 SC-HTB15	
アクティブサブウーハー（本体）	SU-HTB15
フロントスピーカー	SB-HTB15

付属品

付属品をご確認ください。

- □ リモコン（1個）（N2QAYC000047）
  - ●お買い上げ時は、コイン電池が入っています。
- □ HDMIケーブル（1本）（K1HA19CY0001）
- □ 電源コード（1本）（K2CA2CA00024）
- □ スピーカーコード（2本）（REEX1266A: 赤色）（REEX1267A: 白色）
- □ スピーカージョイント部（1個）（RAQ0082）
- □ スタンド（2個）（RYQ0853-K）
- □ 付属足（3個）（RKA0072-KJ: 付属足A 2個）（RMG0859-K: 付属足B 1個）
- □ スタンドベース（2個）（RYK1637A-K）
- □ ねじ（8本）（XYN5+J14FJK: ねじA(大)×6本）（XYN3+F10FJK: ねじB(小)×2本）

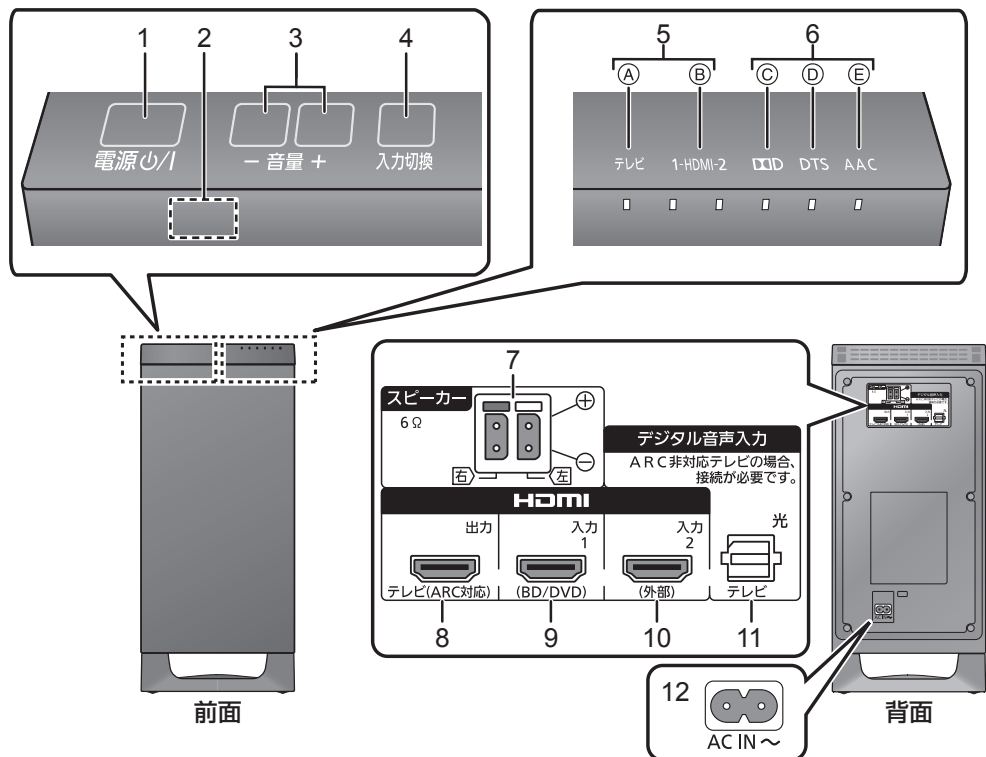
- 付属品の品番は、2011 年 6 月現在のものです。変更されることがあります。
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。
- イラストと実物の形状は異なっている場合があります。

お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布で拭いてください。

- 汚れがひどいときは、水にひたした布をかたく絞ってから汚れを拭き取り、そのあと、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- アクティブサブウーハーやスピーカーの光沢部は、きめの粗い布で拭くと傷つくおそれがあります。またスピーカーネット部は、ティッシュや繊維がほどけやすい布（タオルなど）で拭くと繊維が内部に入るおそれがあります。これらの部分は、乾いたきめの細かい布（眼鏡拭きなど）で拭いてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので、使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

各部の名前と働き

アクティブサブウーハー

1　電源ボタン
2　リモコン受信部 (⇨ 7)
3　音量ボタン
4　入力切換ボタン（押すたびに切り換わります）
- テレビ：　テレビの音声を聴く
- HDMI1：HDMI 入力 1 端子に接続された機器の音声を聴く
- HDMI2：HDMI 入力 2 端子に接続された機器の音声を聴く

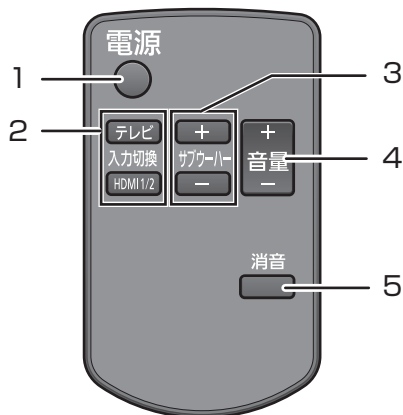
5　入力ランプ※
- Ⓐ　テレビ入力ランプ（緑色に点灯）
- Ⓑ　HDMI 入力 1/2 ランプ（オレンジ色に点灯）

6　音声信号ランプ※（各音声入力時に点灯）
- Ⓒ　ドルビーデジタルランプ
- Ⓓ　DTS ランプ
- Ⓔ　AAC ランプ
- 音声信号については (⇨ 30)

7　スピーカー端子 (⇨ 19)
8　HDMI 映像・音声出力端子「テレビ（ARC 対応）」(⇨ 16, 17)
9　HDMI 映像・音声入力 1 端子「(BD/DVD)」(⇨ 18)
10 HDMI 映像・音声入力 2 端子「(外部)」(⇨ 18)
11 光デジタル音声入力端子「テレビ」(⇨ 17)
12 AC 入力端子（AC IN ～）(⇨ 19)

※入力ランプおよび音声信号ランプは、他にもさまざまな状態に応じて点滅します。(⇨ 28)

リモコン

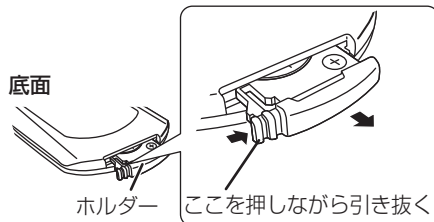
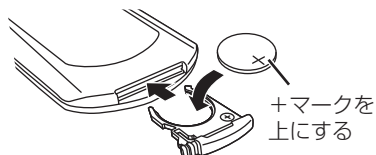
本書ではリモコンの操作を中心に説明しています。

1　電源ボタン (⇨ 20)
2　入力切換ボタン (⇨ 20)
- **[テレビ]**：テレビの音声を聴く
- **[HDMI 1/2]**：HDMI 入力 1 端子または HDMI 入力 2 端子に接続された機器の音声を聴く

3　サブウーハー（低音）ボタン (⇨ 20)
4　音量ボタン (⇨ 20)
5　消音ボタン (⇨ 20)

絶縁シートを引き抜いてからお使いください。

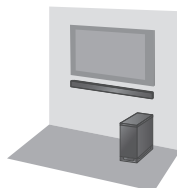
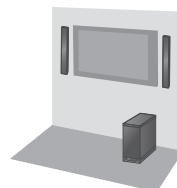
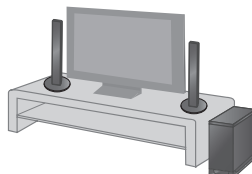
- 引き抜いた絶縁シートは、適切に処理をしてください。

■ コイン電池を交換する

① ホルダーを引き抜く

② 電池を入れてホルダーを戻す

- 本体の近くでリモコンを操作しても動作しない場合は、新しいコイン電池（CR2025）と交換してください。（電池の寿命は使用頻度にもよりますが、約 1 年です。）

はじめに

準備１　設置方法を選ぶ

●設置方法は一例です。

スピーカーの設置

- スピーカーを持ち運ぶときは、必ず両手で持って運んでください。片手で持つと落下するおそれがあります。

■ 壁掛けするとき

スピーカーを取り付ける壁および柱には、ねじ 1 本につき 33 kg 以上の質量を支えられる強度が必要です。施工業者の方にご相談されることをお勧めします。取り付け方が不適切だと、壁やスピーカーを傷つけるおそれがあります。

■ テレビの前に横設置するとき

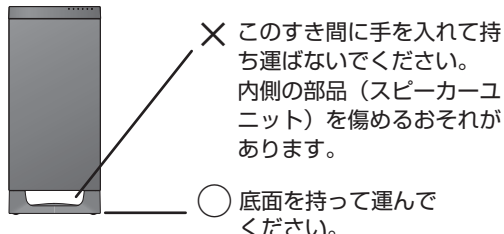
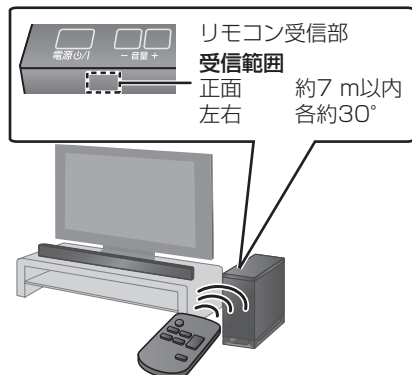
スピーカーがテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）や、リモコン受信部、3D 対応テレビの「3D グラス用発信部」をさえぎる可能性があります。そのときは、以下の処置をお試しください。

- **付属のスタンドを取り付ける場合**
  各種センサーなどが正常に動作する位置までスピーカーをテレビから離してください。それでも各種センサーなどがさえぎられる場合は、スタンドを取り外して設置してください。
- **付属のスタンドを取り付けない場合**
  各種センサーなどが正常に動作する位置までスピーカーをテレビから離してください。それでも各種センサーなどがさえぎられる場合は、テレビの両側に縦設置してください。(⇨ 13)

アクティブサブウーハーの設置

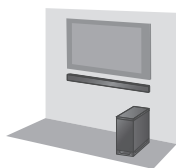
リモコン受信部はアクティブサブウーハーにあります。

- リモコンは下記の受信範囲内で使用してください。

■ 持ち運ぶときは

お知らせ

- 平らな場所に上部パネルを上にしてアクティブサブウーハーを設置してください。
- アクティブサブウーハーやスピーカーを壁やお部屋の角に近づけすぎると、低音が出すぎる場合があります。壁や窓を厚いカーテンで覆うと問題が解消されることがあります。
- テレビに色ムラが生じる場合は、テレビの電源を約 30 分切ってください。それでも直らない場合は、スピーカーをテレビと離して設置してください。
- アクティブサブウーハー、スピーカーに磁気カードや時計など磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。磁気カードや時計などが正常に動作しなくなることがあります。

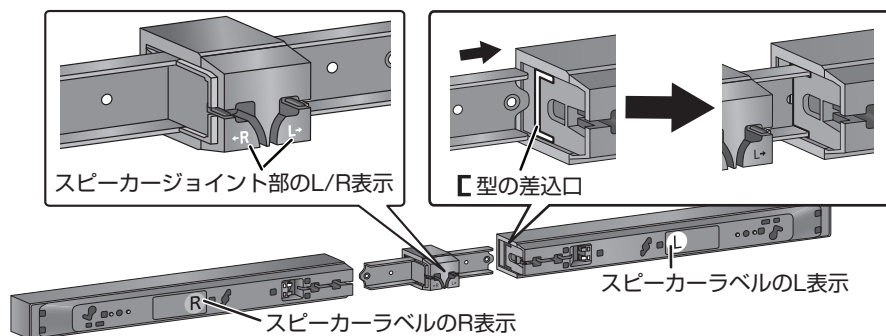
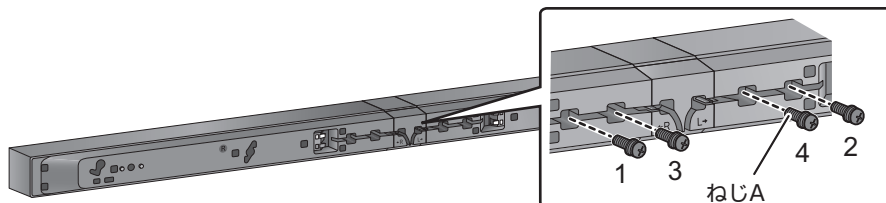
準備 2　スピーカーを組み立てる

壁掛けする場合

横設置　壁掛け

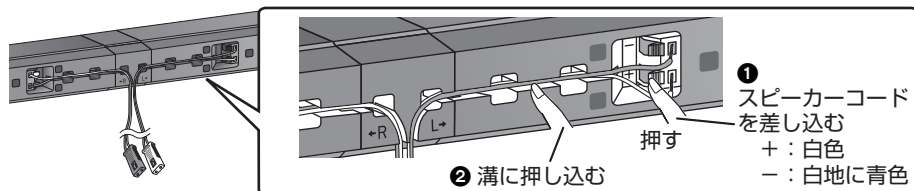
- □ スピーカー（左）（1 個）
- □ スピーカー（右）（1 個）
- □ スピーカーコード（2 本）
  （左）: 白色
  （右）: 赤色
- □ スピーカージョイント部（1 個）
- □ ねじ A（4 本）

●スピーカーの落下を防ぐには、落下・転倒防止ワイヤーを取り付けてください。(⇨ 14)
●取り付け作業は、柔らかい毛布や布などの上で行ってください。

1 スピーカーラベルの L/R 表示とスピーカージョイント部の L/R 表示が合うようにして、スピーカージョイント部の金属部分をスピーカーの[型の差込口にカチッと音がするまで差し込む

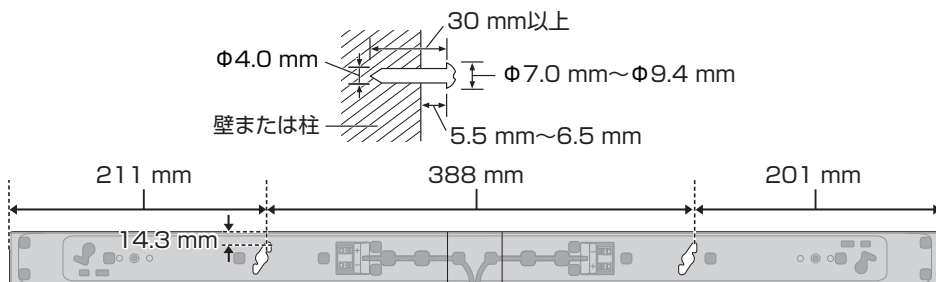
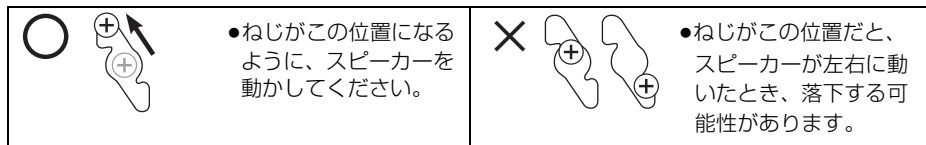
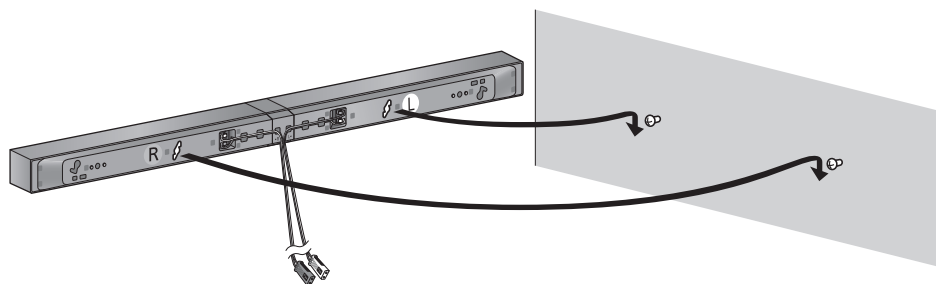
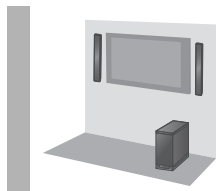
- スピーカーとスピーカージョイント部は左右逆に差し込まないでください。スピーカーの背面にあるラベルの L/R 表示で、左右を確認してください。

2 ねじ A（付属）でスピーカーとスピーカージョイント部を固定する

- 右のイラストで示されている順番にねじを取り付けてください。

3 スピーカーコードを差し込む

- スピーカーコード端子の色（白 / 赤）をスピーカーラベルの L/R 表示の色（白 / 赤）に合わせてください。
- スピーカーコードを差し込む際は、被覆のある部分を挟まないようにお気をつけください。

4 壁にねじ（市販品）を取り付ける

- 下記の寸法を参照して、壁にねじを取り付ける位置を決めてください。
- 取り付ける壁およびねじには、33 kg 以上の質量を支えられる強度が必要です。
- スピーカーの取り付け作業を行う際は、スピーカーの上と左右に 20 mm 以上のスペースを空けてください。

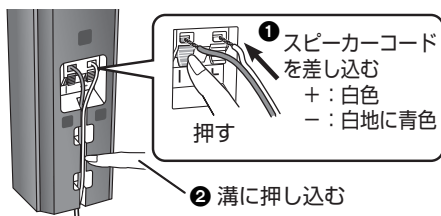
5 スピーカーの穴に壁に取り付けたねじがしっかりはまるように、固定する

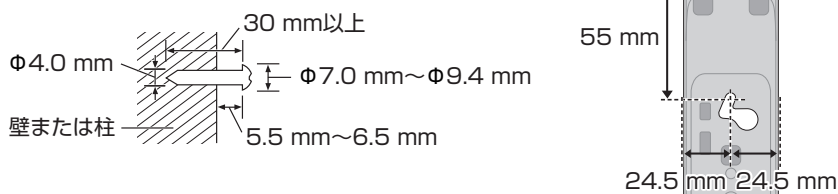
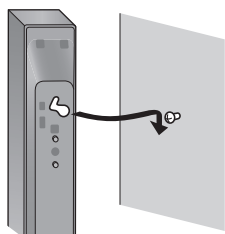
●ねじがこの位置になるように、スピーカーを動かしてください。	●ねじがこの位置だと、スピーカーが左右に動いたとき、落下する可能性があります。

準備する

縦設置　壁掛け

□ スピーカー（左）（1 個）	□ スピーカー（右）（1 個）	□ スピーカーコード（2 本）（左）: 白色（右）: 赤色

●スピーカーの落下を防ぐには、落下・転倒防止ワイヤーを取り付けてください。(⇨ 14)
●取り付け作業は、柔らかい毛布や布などの上で行ってください。

1 スピーカーコードを差し込む

- スピーカーコード端子の色（白 / 赤）をスピーカーラベルの L/R 表示の色（白 / 赤）に合わせてください。
- スピーカーコードを差し込む際は、被覆のある部分を挟まないようにお気をつけください。

2 壁にねじ（市販品）を取り付ける

- 下記の寸法を参照して、壁にねじを取り付ける位置を決めてください。
- 取り付ける壁およびねじには、33 kg 以上の質量を支えられる強度が必要です。
- スピーカーの取り付け作業を行う際は、スピーカーの上と左右に 20 mm 以上のスペースを空けてください。

3 スピーカーの穴に壁に取り付けたねじがしっかりはまるように、固定する

● ねじがこの位置になるように、スピーカーを動かしてください。	● ねじがこの位置だと、スピーカーが左右に動いたとき、落下する可能性があります。

置く場合

横設置　スタンド使用

□ スピーカー（左）（1 個）	□ スピーカー（右）（1 個）	□ スピーカーコード（2 本） （左）: 白色 （右）: 赤色
□ スピーカージョイント部（1 個）	□ スタンド（2 個）	□ ねじ A（6 本）

●スピーカーの落下・転倒を防ぐには、落下・転倒防止ワイヤーを取り付けてください。(⇒ 15)

●取り付け作業は、柔らかい毛布や布などの上で行ってください。

1 “ 横設置　壁掛け ” の手順 1 ～ 3 に従ってスピーカーを組み立てる (⇒ 8, 9)

2 スタンドをスピーカー背面の突起部に取り付け、ねじ A（付属）で固定する

横設置　付属足使用

- スピーカーの落下・転倒を防ぐには、落下・転倒防止ワイヤーを取り付けてください。(⇨ 15)
- 取り付け作業は、柔らかい毛布や布などの上で行ってください。

1 " 横設置　壁掛け " の手順 1 ～ 3 に従ってスピーカーを組み立てる (⇨ 8, 9)

2 スピーカーの底面に付属足を取り付ける

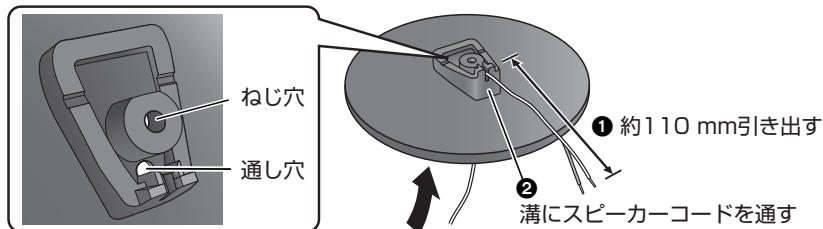
縦設置　スタンドベース使用

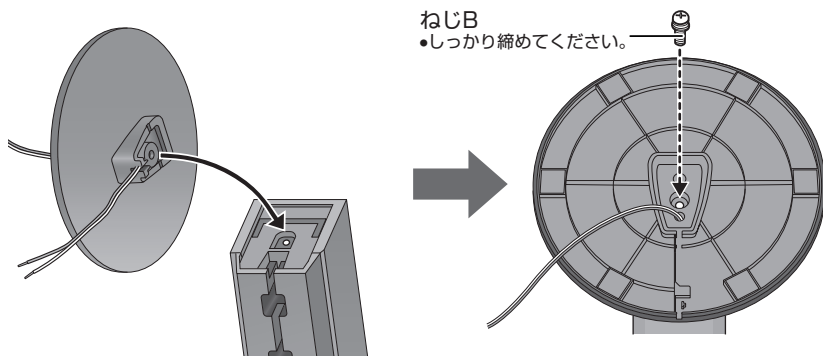
- □ スピーカー（左）（1 個）
- □ スピーカー（右）（1 個）
- □ スピーカーコード（2 本）
  （左）: 白色
  （右）: 赤色
- □ スタンドベース（2 個）
- □ ねじ B（2 本）

●スピーカーの落下・転倒を防ぐには、落下・転倒防止ワイヤーを取り付けてください。(⇨ 15)

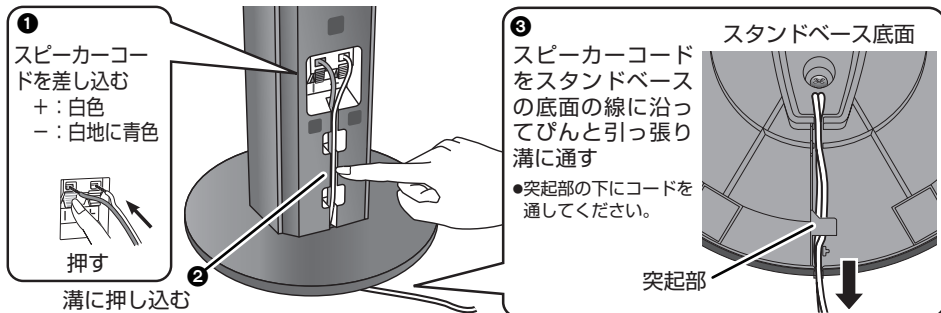
●取り付け作業は、柔らかい毛布や布などの上で行ってください。

1 スタンドベースにスピーカーコードを通す

- 下図に示した通し穴に、裏側からスピーカーコードを通してください。

2 スピーカーをスタンドベースに取り付け、ねじ B（付属）で固定する

- スピーカーコード端子の色（白 / 赤）をスピーカーラベルの L/R 表示の色（白 / 赤）に合わせてください。

（次ページに続く）

3 スピーカーコードを差し込む

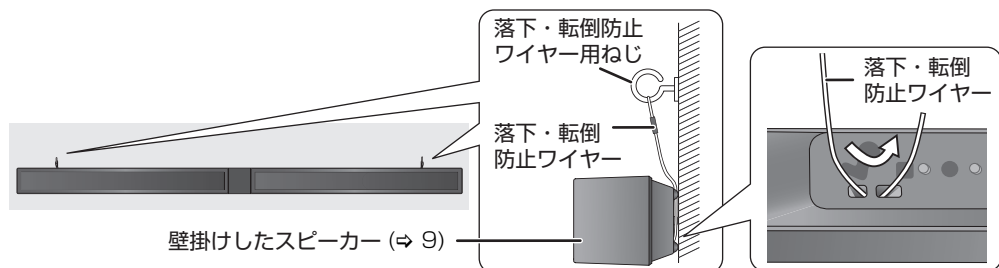
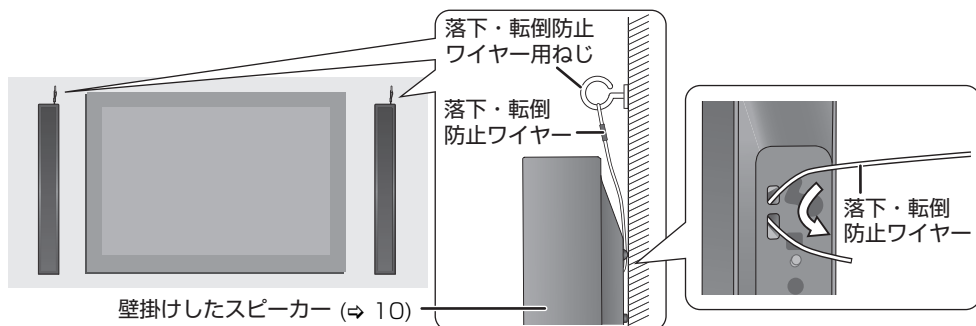
● スピーカーコードを差し込む際は、被覆のある部分を挟まないようにお気をつけください。

スピーカーの落下・転倒を防ぐには

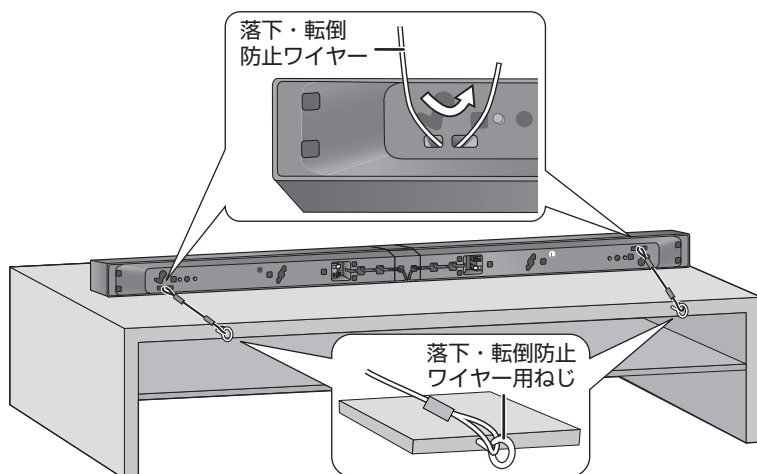
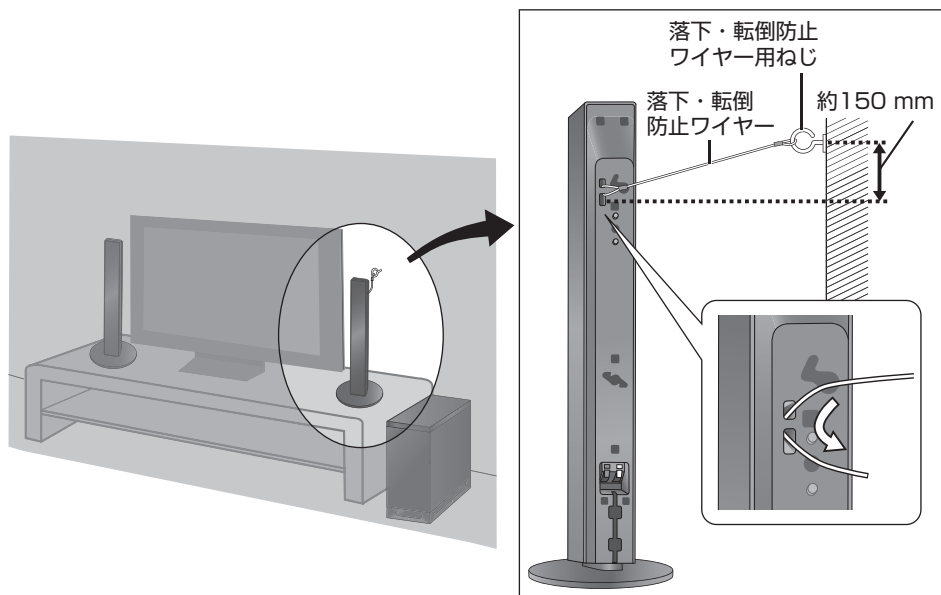
スピーカーの落下・転倒を防ぐために、落下・転倒防止ワイヤー（市販品）および落下・転倒防止ワイヤー用ねじ（市販品）を用いて壁や机に取り付けることをお勧めします。

お知らせ

- 適切な工法について施工業者の方にご相談されることをお勧めします。取り付け方が不適切だと、壁やスピーカーを傷つけるおそれがあります。
- 使用するワイヤーは、直径 2 mm 以下で 10 kg 以上の質量を支えられる強度が必要です。
- ワイヤーのたるみが少なくなるようにしてください。

壁掛けの場合

■ 横設置　壁掛け

■ 縦設置　壁掛け

置く場合

■ 横設置　スタンドまたは付属足使用

■ 縦設置　スタンドベース使用

- 落下・転倒防止ワイヤー用ねじを取り付ける位置は、スピーカーの設置のしかたによって変わります。

準備３　接続する

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続するテレビや各機器の取扱説明書もご覧ください。
すべての接続が完了するまで、 各機器の電源コードをコンセントに接続しないでください。

お知らせ

付属以外の HDMI ケーブルをご使用される場合
- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。HDMI ロゴ (⇒ 表紙) のある「High Speed HDMI™ ケーブル」をお買い求めください。
  品番：RP-CDHS10（1.0 m）、RP-CDHS15（1.5 m）、RP-CDHS20（2.0 m）、RP-CDHS30（3.0 m）など
- HDMI 規格に準拠していないケーブルはご使用できません。

本機は3Dに対応しています
- 3D対応テレビ、3D対応のブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーを本機に接続して、市販のブルーレイ3Dディスクなどを迫力ある3D映像でお楽しみいただけます。

基本の接続

1 テレビの HDMI 入力端子に「ARC 対応」の表示があるかを確認する

- 「ARC 対応」の表示がある場合とない場合では、接続が異なります。

「ARC 対応」表示あり：Ａ の接続
「ARC 対応」表示なし：Ｂ の接続

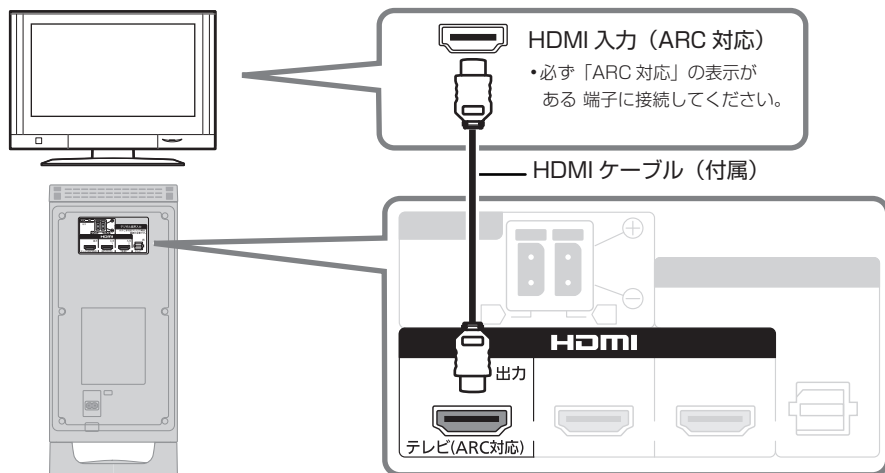
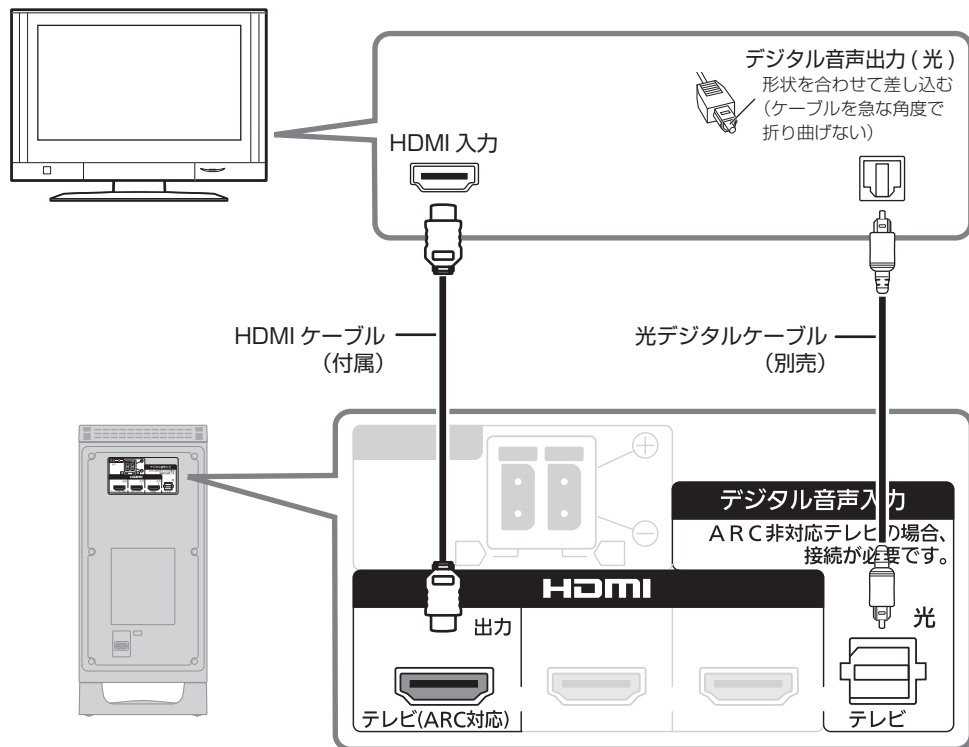
お知らせ

ARC とは？
- ARC とは Audio Return Channel（オーディオ リターン チャンネル）の略称で、HDMI ARC とも呼ばれ、HDMI が持つ機能の一つです。「ARC 対応」と書かれた端子と本機を HDMI 接続すると、従来テレビからの音声を聞くために必要だった光デジタルケーブルが不要になり、HDMI ケーブル 1 本でテレビの映像と音声が楽しめるようになります。
- 他社製テレビで、ARC 対応であるにもかかわらず音声が本機に出力されないときは、光デジタルケーブルが必要な場合があります。テレビの取扱説明書をご覧ください。

2 接続する

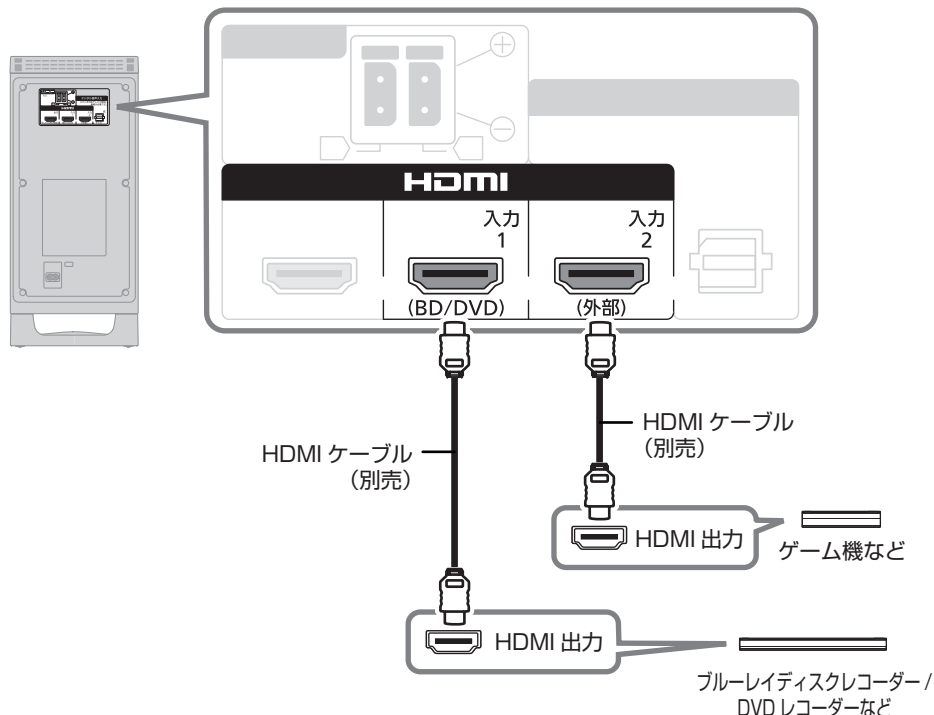
Ａ「 ARC 対応」 表示あり

B 「ARC 対応」 表示なし

デジタル音声出力(光)
形状を合わせて差し込む
(ケーブルを急な角度で
折り曲げない)
HDMI 入力
HDMI ケーブル
(付属)
光デジタルケーブル
(別売)
デジタル音声入力
ARC非対応テレビの場合、
接続が必要です。
HDMI
出力
光
テレビ(ARC対応)
テレビ

ブルーレイディスクレコーダーなどの HDMI 対応機器を接続する

HDMI 対応のブルーレイディスクレコーダーや DVD レコーダーなどの機器を接続することができます。

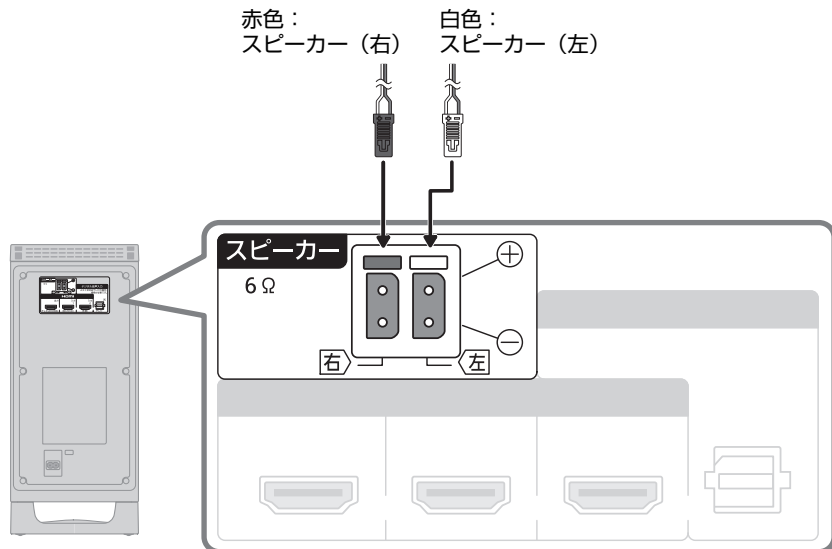
準備する

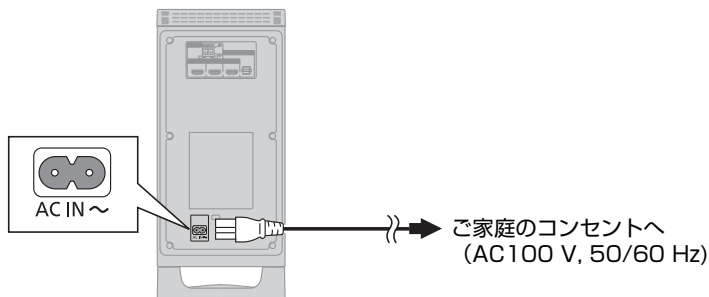
●本機をテレビと接続する (⇨ 16, 17)

お知らせ

スタンバイパススルー機能

- 接続している HDMI 対応機器（ブルーレイディスクレコーダーや DVD レコーダーなど）の映像や音声は本機電源「切」時も本機を通過してテレビへ伝送されます。HDMI 入力 1 端子と HDMI 入力 2 端子の両方に機器を接続している場合、本機の電源「入」時に最後に選んでいた HDMI 入力がテレビへ伝送されます。

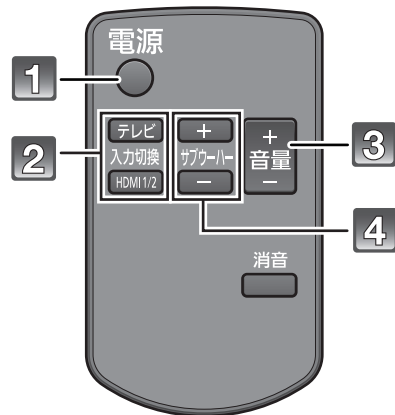
スピーカーコードを接続する

スピーカーコード端子の色を本体側の色に合わせて接続してください。

電源コードを接続する

- **電源コードは必ず最後に接続してください。**

- 本機は、電源を切った状態でも電力を消費しています（0.05 W）。長期間使用しないときは、節電のために電源プラグを抜いておくことをお勧めします。電源プラグを抜くときは、必ず先に本機の電源を切ってください。

テレビや映画、音楽を楽しむ

準備する

- テレビの電源を入れる

- リモコンはアクティブサブウーハーに向けて操作してください。(⇨ 7)

■ 設定や動作が分からなくなった場合は
一度お買い上げ時の状態に戻してください
(⇨ 27)

1 本機の電源を入れる

2 [テレビ] または [HDMI 1/2] を押し、接続している機器を選ぶ

- [HDMI 1/2] を押すたびに、HDMI1 と HDMI2 が切り換わります。
- HDMI1 または HDMI2 を選択した場合は、以下の操作を行ってください。
  –テレビの入力を、本機に接続している機器に切り換える
  –本機に接続している機器で再生の操作をする

3 [+ 音量 −] を押し、本機の音量を調整する

- 調整範囲：0（最小）～ 100（最大）

4 [+ サブウーハー −] を押し、サブウーハーレベル（低音の量）を調整する

- 調整範囲：4段階

- 音量やサブウーハーレベルの調整時、音声信号ランプが左から右 (+)、または右から左 (−) に点滅します。
  最大値または最小値に到達するとボタンを押してもランプは点滅しません。

■ 一時的に音を消すには

[消音] を押す（もう一度押すと解除されます）

- 消音中は音声信号ランプが点滅します。

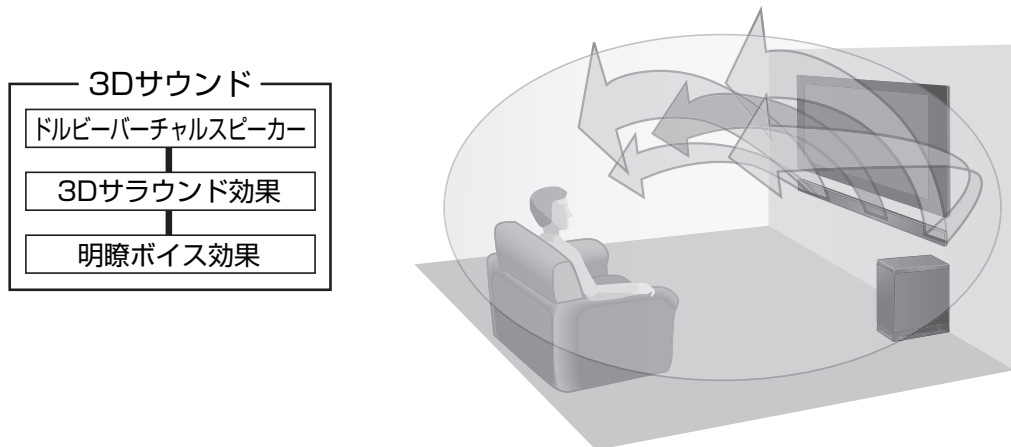
- 音量操作や本機の電源操作を行った場合、または電源コードを抜き差しした場合も消音は解除されます。

お知らせ

- テレビのスピーカーからも音が出ている場合があります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。
- テレビと本機の音量の最大値が異なる場合があります。
- 電源「切」時に 50 を超えた音量になっていた場合は、次回電源「入」時には音量が 50 に設定されます **(音量制限機能)**。この設定は解除することもできます。(⇨ 26)
- HDMI入力1端子またはHDMI入力2端子に接続した機器を再生中に、映像・音声をテレビに切り換えるときは、テレビの入力をテレビチューナーに切り換えてください。ビエラリンク（HDMI）(⇨ 23) が有効でない場合は、本機の入力もテレビに切り換えてください。
- 本機には音量値は表示されません。シアターの音量値表示に対応した当社製テレビ（ビエラ）と組み合わせた場合には、テレビ画面に音量値が表示されます。(⇨ 24)

3D サウンド再生

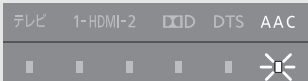
本機では、映像と一体になった臨場感あふれる音場を楽しむことができます。お買い上げ時の設定では、すべての入力音声に対し、3D サウンドの効果が働きます。

（3Dサウンド再生のイメージ図）

■ **ドルビーバーチャルスピーカー**

後方にスピーカーを設置しなくても、5.1 チャンネルのようなサラウンド効果を得ることができます。

■ **3D サラウンド効果**

ドルビーバーチャルスピーカーに加え、パナソニック独自の音場制御技術により、上下 / 前後方向の音場を広げ、3D 映像にもマッチした奥行感や迫力のある音を実現しています。

■ **明瞭ボイス効果**

テレビ画面の方向からドラマのセリフやスポーツ中継の解説などの音声が聞こえるため、映像と一体感のある音が楽しめます。また、通常の音量時だけではなく、周囲への騒音が気になる夜間などの小音量時でも、セリフの聞き取りやすさを失わずに音声を楽しむことができます。

ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果については、再生モード (⇨ 22) を変更することで、効果を「切 / 入」することもできます。

再生モードについて

お買い上げ時の設定では、ブルーレイや DVD などのマルチチャンネル音声だけではなく、テレビ放送などの2チャンネル音声に対してもドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果が働きます。
再生モードを変更することで、音声に応じて効果を選べます。

再生モード	ドルビーバーチャルスピーカーおよび 3D サラウンド効果
サラウンド再生モード（初期設定） テレビ 1-HDMI-2 DD DTS AAC	すべての入力音声に対して有効にします。
自動再生モード※1 ※2 テレビ 1-HDMI-2 DD DTS AAC	マルチチャンネル音声に対しては有効にします。 2 チャンネル音声に対しては無効にします。
2チャンネル再生モード テレビ 1-HDMI-2 DD DTS AAC	すべての入力音声に対して無効にします。

※ 1：入力信号に応じて、ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果が自動的に設定されます。
※ 2：入力音声がマルチチャンネルの場合は、自動再生モード時もこのランプが同時に点滅します。

再生モードを切り換えるには

1 リモコンの [消音] を 2 秒以上押し続ける

● 本体のランプが点滅し、現在の再生モードが表示されます。

2 モード表示中に [消音] を再度押す

● 押すたびに再生モードが順に切り換わります。操作後約 10 秒で通常の表示に戻ります。

お知らせ

● 光デジタル接続している場合、48 kHz を超えるサンプリング周波数の信号が入力されると、ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果の機能は自動的に解除されます。

ビエラリンク(HDMI)を使う

ビエラリンク(HDMI)(HDAVI Control™)とは

本機とHDMIケーブル（付属または別売）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン1つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
※すべての操作ができるものではありません。

お知らせ

- ビエラリンク(HDMI) は、HDMI CEC (Consumer Electronics Control) と呼ばれる業界標準のHDMIによるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製HDMI CEC対応機器でも､「本機の電源を自動で「入／切」する」､「本機の音量調整、消音をする」､「テレビから音声を出すか、本機から音声を出すかを切り換える」および「本機の入力を自動で切り換える」(⇨ 24) 機能はお使いいただけます。ただし、すべての他社製HDMI CEC対応機器における動作を保証するものではありません。
- 本機はビエラリンク（HDMI）Ver.5に対応しています。ビエラリンク（HDMI）Ver.5とは、従来の当社製ビエラリンク機能にも対応した最新の当社基準です。（2010年12月現在）
- お使いのテレビがビエラリンク（HDMI）対応か分からないときは、機器にビエラリンク（HDMI）のロゴマーク (⇨ 表紙) が付いているかをお確かめになるか、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

準備する

1 本機とビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）をHDMIケーブルで接続する (⇨ 16 ～ 18)

- HDMI規格に準拠していないケーブルでは動作しません。

2 テレビ（ビエラ）の設定を以下のように変更する（機器によって表示が異なる場合があります）

①「電源オン時の音声出力」を「シアター」にする
（操作の一例）メニュー画面より「設定する」→「初期設定」→「接続機器関連設定」→「ビエラリンク (HDMI) 設定」→「電源オン時の音声出力」と進み、「シアター」を選ぶ

②「音声をシアターから出す」を選ぶ
（操作の一例）ビエラリンクボタンを押し、「音声をシアターから出す」を選ぶ

③「サウンド」を「オート」にする
（操作の一例）ビエラリンクボタンを押し、「シアターサウンドを切り換える」を選び、「サウンド」を「オート」にする

- テレビ（ビエラ）によって操作は異なります。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。

3 すべての機器の電源を入れ、一度テレビの電源を「切 / 入」する

HDMI入力端子に機器を接続している場合は、下記4、5も行ってください。

4 テレビ（ビエラ）の入力を切り換え、本機を接続したHDMI入力を選ぶ

5 HDMI入力1端子またはHDMI入力2端子に接続した機器の再生を開始し、本機の入力をHDMI1またはHDMI2に切り換え、画像が正しく映ることを確認する

お知らせ

- 各機器がビエラリンク（HDMI）を有効にする設定になっているか確認してください。
- 機器を追加したときや接続しなおしたとき、工場出荷設定に戻したとき (⇨ 27) にも上記の操作を行ってください。

ビエラリンク（HDMI）でできること

テレビ（ビエラ）のリモコンで行う操作です
必ず 23 ページの「準備する」を先に行ってください

- **テレビ（ビエラ）によって操作は異なります。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。**

本機の電源を自動で「入 / 切」する

テレビ（ビエラ）の電源を「入」にすると、本機の電源も入ります。（「切」にすると、本機の電源も切れます。）

本機の音量調整、消音をする

テレビ（ビエラ）のリモコンで本機の音量調整、消音ができます。
- 音量表示は、ビエラリンク（HDMI）Ver.5 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）で表示されます。

音場効果を自動で切り換える

ビエラリンク（HDMI）対応の接続機器でデジタル放送の番組を視聴または再生中、DVD、CD、SD などを再生中に、そのソースサウンドを自動で切り換えることができます [**番組ぴったりサウンド**（オートサウンド連携）]。この機能を使うには、テレビ（ビエラ）の「サウンド」を「オート」にしてください。(⇨ 23)
- 手動でテレビ（ビエラ）の「サウンド」を変更して、本機のサウンド効果を連動して切り換えることもできます。
- 番組ぴったりサウンドは、ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）で動作します。
- 接続した機器側で、自動的にサウンドを切り換えるかどうかの設定ができます。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ（ビエラ）から音声を出すか、本機から音声を出すかを切り換える

テレビ（ビエラ）から音声を出すときは、テレビ（ビエラ）で「音声をテレビから出す」を選択します。
- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）と組み合わせる場合は、テレビから音声を出すように切り換えたとき、自動的に本機の電源を切る設定もできます。**（こまめにオフ機能）**

本機から音声を出すときは、テレビ（ビエラ）で「音声をシアターから出す」を選択します。

本機の入力を自動で切り換える

テレビ（ビエラ）のリモコンでチャンネル選択などの操作を行うと、本機の入力はテレビになります。
HDMI 入力 1 端子または HDMI 入力 2 端子に接続した機器で再生などの操作を行うと、本機の入力はHDMI1 または HDMI2になります。

お知らせ

- ビエラリンク（HDMI）対応のレコーダー（ディーガ）も接続している場合、テレビ（ビエラ）の電源をリモコンで切ると、レコーダー（ディーガ）の電源も自動的に「切」になります。
- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、本機の電源を入れると、テレビ（ビエラ）が「音声をシアターから出す」設定になります。
- ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応している当社製テレビ（ビエラ）と接続時に、映像が音声よりも遅れている場合に、自動的に音声を遅らせて映像に近づけます。（オートリップシンク）
  ビエラリンク（HDMI）Ver.2 以前の当社製テレビ（ビエラ）、または他社製テレビを接続している場合は、音声を「40 ms（msec）」遅らせる設定になります。

応用操作

本機を使ってテレビ、映画、音楽をお楽しみいただくにあたり、通常以下の操作は必要ありません。
お使いいただく状況に応じて、必要なときに設定してください。

■ 二重音声放送の切り換え

下記の操作で二重音声放送の主音声、副音声を切り換えることができます。

① テレビ / レコーダーの音声出力がビットストリーム（AAC）に設定されていることを確認する
② リモコンの [HDMI 1/2] を 2 秒以上押し続ける（以下のランプが点滅します）

主音声　　副音声　　主音声＋副音声

DD　　AAC　　DD DTS AAC

③ 現在の状態が表示中（約 10 秒間）に [HDMI 1/2] を再度押す

- 押すごとに設定が切り換わります。操作後約 10 秒で通常の表示に戻ります。
- 設定は再度切り換えるまで保持されます。

■ リモコンモードの切り換え

本機のリモコンで、他の当社製オーディオ製品が動作してしまうときは、下記の操作を行い、本体とリモコンを、「リモコンモード 2」に設定してください。

① 他の当社製オーディオ製品の電源を切る
② リモコンの [HDMI 1/2] と [消音] を 4 秒間押し続ける
③ すべてのランプが約 10 秒間点滅することを確認する

テレビ　1-HDMI-2　DD　DTS　AAC

–「リモコンモード 1」に戻す場合は、リモコンの [テレビ] と [消音] を 4 秒間押し続けてください。

- 設定は再度切り換えるまで保持されます。

お買い上げ時に「入」になっている機能を「切」にするには

お買い上げ時には、以下の機能が働くようになっています。お使いいただく状況に応じて、これらの機能を「切」にすることもできます。

■ 3D サラウンド効果および明瞭ボイス効果 (⇒ 21)

お好みで、3D サラウンド効果および明瞭ボイス効果を「切」にし、ドルビーバーチャルスピーカーの効果のみで楽しむことができます。

① リモコンの [テレビ] を 2 秒以上押し続ける（以下のランプが点滅します）

ドルビーバーチャルスピーカーのみ「入」　　3D サラウンド効果および明瞭ボイス効果も「入」

② 現在の状態が表示中（約 10 秒間）に [テレビ] を再度押す

- 押すごとに設定が切り換わります。操作後約 10 秒で通常の表示に戻ります。
- 電源を「切 / 入」すると、効果が「入」の状態に戻ります。

（次ページに続く）

■ ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）（⇨ 23）

他社製 HDMI 対応機器との接続時に動作が不安定になる場合などに、下記の操作でビエラリンク（HDMI）を使わない設定にできます。

① リモコンの[消音]と本体の[音量－]を 2 秒以上押し続ける

② すべてのランプが 1 回点滅することを確認する

テレビ　1-HDMI-2　DD　DTS　AAC

③ 設定変更後に、接続しているすべての機器の電源を「切/入」する

● ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にすると、ARCの機能が働かなくなります。必ず光デジタルケーブルを接続してください。（⇨ 17）

■ 小音量時にさらに声を聞きとりやすくする機能

本機には、小音量時にさらに声を聞きとりやすくする機能があります。違和感などがある場合には、下記の操作で機能を使わない設定にできます。

① リモコンの [テレビ] と本体の [音量－] を 2 秒以上押し続ける

② すべてのランプが 1 回点滅することを確認する

テレビ　1-HDMI-2　DD　DTS　AAC

■ 音量制限機能

本機には、過大出力を制限する「音量制限機能」があります。この機能を使うと、電源「切」時に 50 を超えた音量になっていた場合は、次回電源「入」時には音量が 50 に設定されます。下記の操作で機能を使わない設定にできます。

① リモコンの [消音] と本体の [音量 +] を 2 秒以上押し続ける

② すべてのランプが 1 回点滅することを確認する

テレビ　1-HDMI-2　DD　DTS　AAC

■ 番組連動おまかせエコ

番組ぴったりサウンド (⇨ 24) と連動し、比較的音量変化の少ない番組（ドラマ、バラエティ、ニュースなど）の視聴時に自動的に消費電力を抑えます。（**エコモード**）

● ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）が必要です。

下記の操作で機能を使わない設定にできます。

① リモコンの [HDMI 1/2]と本体の[音量－]を 2 秒以上押し続ける

② すべてのランプが 1 回点滅することを確認する

テレビ　1-HDMI-2　DD　DTS　AAC

お知らせ

● 以下の機能を「切」にすると、本機の電源を「切/入」しても、「切」にした設定は保持されます。
  – ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）
  – 小音量時にさらに声を聞きとりやすくする機能
  – 音量制限機能
  – 番組連動おまかせエコ

  「入」の状態に戻すには、本機の設定をお買い上げ時の状態に戻してください。（⇨ 27）

故障かな！？

故障かな？と思ったら以下の項目を確かめてください。それでも直らないときや、症状が載っていないときは販売店にご相談ください。

本機の設定をお買い上げ時の状態（工場出荷設定）に戻すには

- **本機の動作がおかしいと思われる場合、一度お買い上げ時の状態に戻すと、症状が改善されることがあります。**

① 電源「入」の状態で、本体の電源ボタンを 4 秒以上上押し続ける。
② 本体のすべてのランプが数回点滅したあと消灯することを確認する。
- お買い上げ時の設定に戻ります。
- 本機のリモコンモードが「1」に設定されます。必要に応じてリモコンモードを再設定してください。(⇒ 25)

共通

電源が入らない。

- 電源プラグがコンセントに正しく接続されていますか。(⇒ 19)
- 電源ボタンを押しても本体のランプが点滅し、すぐに電源が切れてしまう場合は、電源プラグを抜き、販売店にご相談ください。

リモコンが働かない。

- 電池が消耗している場合は電池を交換してください。(⇒ 5)
- 絶縁シートを抜いてください。(⇒ 5)
- 電池を交換後、リモコンモードの再設定が必要な場合があります。(⇒ 25)
- リモコンが正しく働く範囲でお使いください。(⇒ 7)

本機のリモコンで、他の当社製オーディオ製品が動作してしまう。

- 本体とリモコンを、「リモコンモード 2」に設定してください。(⇒ 25)

テレビ入力ランプが点滅し、音が出ない。

- 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。他のランプも点滅している場合は、どのランプかをお知らせください。

点灯・点滅していた本体のランプが消えてしまった。

- 本機ではランプの点灯・点滅によって機能の状態を一定時間表します。点灯・点滅後に消灯しても本機の故障ではありません。

テレビから音声を出す設定にすると、本機の電源が切れてしまった。

- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）と組み合わせると、こまめにオフ機能が働く場合があります。(⇒ 24)

HDMI

正常に動作しない。

- HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続していませんか。電源を切り、電源プラグを抜いてから接続しなおしてください。(⇒ 16 ～ 18)

ビエラリンク（HDMI）が働かなくなった。

- 接続した機器のビエラリンク（HDMI）設定を確かめてください。
- ビエラリンク（HDMI）の効果を切っていませんか。(⇒ 26)
- HDMI 機器の接続変更、停電、コンセントの抜き差しが原因の可能性があります。以下を試してみてください。
  – HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れなおす。
  – テレビ（ビエラ）のビエラリンク（HDMI）の設定を一度「切」にした後、再度入れなおす。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。
  – テレビ（ビエラ）と本機を HDMI ケーブルで接続してテレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本機の電源プラグを一度抜いてから接続しなおす。

HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。

- DVDをチャプターから再生した場合に起こることがあります。接続した映像機器のデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM設定にしてください。

他社製 HDMI 対応機器（テレビやブルーレイディスクレコーダーなど）との接続時に、動作が不安定になる。

- ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にしてください。(⇒ 26)

音声

機器の再生を始めても音 (または映像) が出ない。

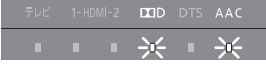
- 「消音」になっている場合、消音を解除してください。消音中は音声信号ランプが同時に点滅します。(⇒ 20)
- 機器が正しく接続されていますか。(⇒ 16 ～ 19)
- 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。(⇒ 30)
- 本機の電源を「切/入」してください。
- テレビと HDMI 接続をしている場合は、テレビの HDMI 端子に「ARC 対応」と表示されているか確認してください。表示がない場合は、HDMI ケーブルに加えて光デジタルケーブルを接続してください。(⇒ 16, 17)
- 当社製テレビ（ビエラ）を接続している場合、本体の電源ボタン、あるいはリモコンで本機の電源を入れると、本機から音が出ない場合があります。ビエラリンクを使用し、テレビ（ビエラ）のリモコンによる電源操作を行ってください。(⇒ 24)
- 接続経路に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちの他のケーブルで、再度接続を試みてください。

（次ページに続く）

- 入力信号を正しく選択してください。
- HDMI入力 2 ランプが点滅し、音が出ない場合は、以下の処置をしてください。
  ① 接続した機器の電源を「切 / 入」する
  ② 本機の電源を切り、HDMI ケーブルを抜き差しした後、再度電源を入れる

デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。

- テレビ / レコーダーの音声出力がビットストリーム（AAC）に設定されているか確認してください。(⇨ 25)

50 を超えた音量にして電源を切ると、次回電源を入れたとき音量が 50 になってしまう。

- 本機には、過大出力を制限する「音量制限機能」があります。この機能を使わない設定にできます。(⇨ 26)

小音量時に声が強調されすぎたり、声の質に違和感があったりする。

- 本機には、小音量時にさらに声を聞きとりやすくする機能があります。違和感などがある場合には、この機能を使わない設定にできます。(⇨ 26)

音が出なくなった。電源が勝手に切れる。（本機は異常を検出すると、保護回路が働いて電源を自動的に切ります。）

- アンプの出力異常です。音量を下げ、電源の「切 / 入」をしてみてください。
- 著しく大きな音で聞いていませんか。または異常に暑い場所で使用していませんか。
  ⇒ 音量を下げるなどして原因を解消し、しばらく待ってから再び電源を入れてください。（保護回路の動作が解除されます。）

それでも同じ現象が起こる場合は、テレビ入力ランプと HDMI 入力 2 ランプが同時に点滅しているか確認してください。そのうえで電源を切り、電源プラグを抜いた後、販売店にご相談ください。

地上デジタル/BS放送の番組で始めの数秒間の音声が再生されない。

- テレビ（ビエラ）の「サウンド」を「オート」から「スタンダード」に変更してみてください。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。

ランプが点滅したら

本機の状態は、各ランプの点滅によって示されます。下記に挙げる点滅はシステムの正常な動きを示しており、故障などの異常を示すものではありません。下記以外の点滅が表示された場合は、「故障かな！？」(⇨ 27) を参照してください。

点滅箇所	状態
	音声信号ランプが左から右 (+)、または右から左 (–) に点滅する ● 音量やサブウーハーレベルを調整しています。(⇨ 20)
	音声信号ランプが同時に点滅する ●「消音」になっています。(⇨ 20)
	ドルビーデジタルランプが約 10 秒間点滅する ● 再生モードをサラウンド再生モードに設定中です。(⇨ 22) ● 二重音声放送を主音声に設定中です。(⇨ 25) ● 3D サラウンド効果および明瞭ボイス効果を「入」に設定中です。(⇨ 25)
	ドルビーデジタルランプと DTS ランプ、もしくは DTS ランプが約 10 秒間点滅する ● 再生モードを自動再生モードに設定中です。(⇨ 22)
	AAC ランプが約 10 秒間点滅する ● 再生モードを 2 チャンネル再生モードに設定中です。(⇨ 22) ● 二重音声放送を副音声に設定中です。(⇨ 25) ● 3D サラウンド効果および明瞭ボイス効果を「切」に設定中です。(⇨ 25)
	ドルビーデジタルランプと AAC ランプが約 10 秒間点滅する ● 二重音声放送を主音声＋副音声に設定中です。(⇨ 25)
	すべてのランプが約 10 秒間点滅する ● リモコンモードを切り換えました。(⇨ 25) **すべてのランプが 1 回点滅する** ● ビエラリンク、小音量時にさらに声を聞きとりやすくする機能、音量制限機能、番組連動おまかせエコのいずれかを「切」にしました。(⇨ 26)

仕様

本体

■ アンプ部

実用最大出力（各 ch 動作時）
（非同時駆動、JEITA）
サブウーハー ch
120 W per channel（100 Hz、3 Ω）
フロント ch (L、Rch)
60 W per channel（1 kHz、6 Ω）
実用最大出力合計値　240 W
（非同期駆動、JEITA）

■ 入出力端子部

HDMI
本システムは、ビエラリンク Ver.5 に対応しています。
HDMI 入力 (HDMI1、HDMI2)　2
入力コネクタ　Type A (19 pin)
HDMI 出力 (テレビ (ARC 対応))　1
出力コネクタ　Type A (19 pin)
デジタル音声入力
光 (テレビ)　1
サンプリング周波数　32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
88.2 kHz、96 kHz (光 (テレビ) 入力、リニア PCM のみ)
音声フォーマット
リニア PCM、Dolby Digital、DTS、AAC
スピーカー出力
フロント L、R　2

■ サブウーハー部

1 ウェイ 1 スピーカーシステム（バスレフ型）
ウーハー　16 cm コーン型 ×1

■ 本体総合

消費電力	77 W
電源スタンバイ時の消費電力	0.05 W

電源　AC100 V、50/60 Hz
寸法（幅 × 高さ × 奥行）(180 × 408 × 305) mm
質量　5.6 kg

共通

動作温度　0 ℃－ 40 ℃
動作湿度　20 %－ 80 % RH（結露のないこと）

フロントスピーカー

■ フロントスピーカー部

2 ウェイ 2 スピーカーシステム（バスレフ型）
ウーハー　3.5×10 cm コーン型 ×1
ツイーター　2.5 cm セミドーム型 ×1

■ スピーカー総合

横設置　スタンド使用時
寸法（幅 × 高さ × 奥行）(800 × 89 × 75) mm
質量　1.4 kg
横設置　付属足使用時
寸法（幅 × 高さ × 奥行）(800 × 51 × 58) mm
質量　1.36 kg
横設置（壁掛け使用時）
寸法（幅 × 高さ × 奥行）(800 × 約 49 × 58) mm
質量　1.36 kg
縦設置　スタンドベース使用時
寸法（幅 × 高さ × 奥行）(135 × 398 × 135) mm
質量　0.64 kg
縦設置（壁掛け使用時）
寸法（幅 × 高さ × 奥行）(約 49 × 380 × 58) mm
質量　0.59 kg

● この仕様は、性能向上のために変更することがあります。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
: JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20 A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

本機で再生できるデジタル情報

■ 音声信号

AAC	地上デジタル放送や BS 放送など
ドルビーデジタル	ブルーレイディスクや DVD など
DTS	ブルーレイディスクや DVD など
LPCM（2 チャンネル）	CD や DVD オーディオなど
LPCM（マルチチャンネル）	ブルーレイディスクや DVD オーディオなど

本機は3Dに対応しています

3D対応テレビ、3D対応のブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーを本機に接続して、市販のブルーレイ3Dディスクなどを迫力ある3D映像でお楽しみいただけます。

著作権など

ーこのマークがある場合はー

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠警告

異常･故障時には直ちに使用を中止する

異常があったときには、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
- 映像や音声が出ないことがある
- 内部に水や異物が入った
- 電源プラグが異常に熱い
- 本体に変形や破損した部分がある

そのまま使うと火災･感電の原因になります。

- 電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

電源コード･プラグを破損するようなことはしない

(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど)

傷んだまま使用すると、火災･感電･ショートの原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災･感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

使い切った電池は、すぐにリモコンから出す

そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱･破裂の原因になります。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ･ゆるんだコンセントは、使わないでください。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

電池の液がもれたときは、素手でさわらない

- 液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

⚠ 警告

ねじ類やコイン電池、付属足は、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

垂直な壁以外の場所に取り付けない

落下したり、破損して、けがの原因になることがあります。

本取扱説明書で指示した以外の取り付けは行わない

落下したり、破損して、けがの原因になることがあります。

荷重に耐えられない場所に取り付けない

取り付け部の強度が弱いと、落下してけがの原因になります。

壁掛けの取り付け強度は33 kg以上を確保する

強度が不足すると、落下してけがの原因になります。

長期使用を考慮して設置場所の強度を確保する

長期使用により設置場所の強度が不足すると落下してけがの原因になります。

⚠ 注意

スピーカーは付属のものを接続する

付属以外のスピーカーを接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

取り付けねじや電源コードが壁内部の金属部や配線部材と接触しないように設置する

壁内部の金属部や配線部材と接触して、感電の原因になることがあります。

安全に操作するために、適切な高さに取り付ける

無理な体勢での操作は落下したり、けがの原因になることがあります。

テレビ台やラックなどに置いたり、テレビの前に置いて使うときは、落下・転倒防止処置をする

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

- 落下·転倒防止処置は工事専門業者にご相談ください。

ベース部側面の開口部に手や足を入れない

誤ってスピーカーの転倒によるけがの原因になることがあります。

- 特にお子様にはご注意ください。

⚠注意

異常に温度が高くなるところに置かない

温度が高くなりすぎると、火災の原因になることがあります。

- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。
- また、外装ケースや内部部品が劣化する原因にもなりますのでご注意ください。

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、火災の原因になることがあります。

- 背面の通風孔をふさがないでください。
- また、外装ケースが変形する原因にもなりますのでご注意ください。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

本機の上に重い物を載せたり、乗ったりしない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

・高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気、熱が当たるところ、エアコンの下などの水滴がかかるおそれのあるところに取り付けない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

コイン電池は誤った使いかたをしない

- **指定以外の電池を使わない**
- **⊕と⊖は逆に入れない**
- **加熱・分解したり、水などの液体や火の中に入れたりしない**
- **ネックレスなどの金属物といっしょにしない**

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

使いかた·お手入れ·修理などは

■ **まず、お買い求め先へご相談ください。**

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名			
電話	（　　）	ー	
お買い上げ日	年	月	日

修理を依頼されるときは

「故障かな！？」(⇨ 27, 28) でご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げ日と下記の内容をご連絡ください。

● **製品名**	**ホームシアターオーディオシステム**
● **品番**	**SC-HTB15**
● **故障の状況**	**できるだけ具体的に**

● **保証期間中は、 保証書の規定に従って出張修理いたします。**
保証期間：お買い上げ日から本体１年間

● **保証期間終了後は、 診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。**

※ 修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	**診断・修理・調整・点検などの費用**
部品代	**部品および補助材料代**
出張料	**技術者を派遣する費用**

※ **補修用性能部品の保有期間**　８年

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

■ **転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください。**

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

●使いかた・お手入れなどのご相談は・・・

パナソニック お客様ご相談センター

電 話　365日 受付9時～20時
フリーダイヤル 携帯·PHS OK **0120-878-365**
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

●修理に関するご相談は・・・

パナソニック 修理ご相談窓口

電 話
フリーダイヤル 携帯·PHS OK **0120-878-554**
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】
パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

各地域の 修理ご相談窓口 ※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

• 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

地区	電話番号	所在地
北海道地区		
札幌	☎(011)894-1251	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7
旭川	☎(0166)22-3011	旭川市2条通16丁目1166
帯広	☎(0155)33-8477	帯広市西20条北2丁目23-3
函館	☎(0138)48-6631	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）
東北地区		
青森	☎(017)775-0326	青森市大字浜田字豊田364
秋田	☎(018)868-7008	秋田市外旭川字小谷地3-1
岩手	☎(019)645-6130	盛岡市厨川5丁目1-43
宮城	☎(022)387-1117	仙台市宮城野区扇町7-4-18
山形	☎(023)641-8100	山形市平清水1丁目1-75
福島	☎(024)991-9308	郡山市亀田1丁目51-15
首都圏地区		
栃木	☎(028)689-2555	宇都宮市上戸祭3丁目3-19
群馬	☎(027)254-2075	前橋市箱田町325-1
茨城	☎(029)864-8756	つくば市筑穂3丁目15-3
埼玉	☎(048)728-8960	桶川市赤堀2丁目4-2
千葉	☎(043)208-6034	千葉市中央区末広5丁目9-5
東京	☎(03)5477-9700	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17
山梨	☎(055)222-5822	甲府市宝1丁目4-13
神奈川	☎(045)847-9720	横浜市港南区日野5丁目3-16
新潟	☎(025)286-0180	新潟市東区東明1丁目8-14
中部地区		
石川	☎(076)280-6608	金沢市玉鉾2丁目266番地
富山	☎(076)424-2549	富山市根塚町1丁目1-4
福井	☎(0776)21-0622	福井市問屋町2丁目14
長野	☎(0263)86-9209	松本市寿北7丁目3-11
静岡	☎(054)287-9000	静岡市駿河区高松2丁目24-24
愛知	☎(052)819-0225	名古屋市瑞穂区塩入町8-10
岐阜	☎(058)278-6720	岐阜市中鶉4丁目42
三重	☎(059)254-5520	津市久居野村町字山神421
近畿地区		
滋賀	☎(077)582-5021	守山市水保町1166番地の1
京都	☎(075)646-2123	京都市南区上鳥羽中河原3番地
大阪	☎(06)7730-8888	大阪市城東区関目2丁目15-5
奈良	☎(0743)59-2770	大和郡山市筒井町800番地
和歌山	☎(073)475-2984	和歌山市中島499-1
兵庫	☎(078)796-3140	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4
中国地区		
鳥取	☎(0857)26-9695	鳥取市安長295-1
米子	☎(0859)34-2129	米子市米原4丁目2-33
松江	☎(0852)23-1128	松江市平成町182番地14
出雲	☎(0853)21-3133	出雲市渡橋町416
浜田	☎(0855)22-6629	浜田市下府町327-93
岡山	☎(086)242-6236	岡山市北区野田3丁目20番8号
広島	☎(082)295-5011	広島市西区南観音1丁目13-5
山口	☎(083)973-2720	山口市小郡下郷220-1
四国地区		
香川	☎(087)874-3110	高松市国分寺町国分359番地3
徳島	☎(088)624-0253	徳島市沖浜2丁目36
高知	☎(088)834-3142	高知市仲田町2-16
愛媛	☎(089)905-7544	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1
九州地区		
福岡	☎(092)593-8002	春日市春日公園3丁目48
佐賀	☎(0952)26-9151	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044
長崎	☎(095)830-1658	長崎市東町1919-1
大分	☎(097)556-3815	大分市萩原4丁目8-35
宮崎	☎(0985)63-1213	宮崎市本郷北方字草葉2099-2
熊本	☎(096)367-6067	熊本市健軍本町12-3
鹿児島	☎(099)250-5657	鹿児島市与次郎1丁目5-33
大島	☎(0997)53-5101	奄美市名瀬朝仁町11-2
沖縄地区		
沖縄	☎(098)877-1207	浦添市城間4丁目23-11

所在地、電話番号は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。
最新の「各地域の修理ご相談窓口」はホームページをご活用ください。
http://panasonic.co.jp/cs/service/area.html

0511

会員サイト「CLUB Panasonic」で「ご愛用者登録」をしてください

PC http://club.panasonic.jp/

※このサービスはWEB限定のサービスです。

●使いかた・お手入れなどのご相談は・・・

パナソニック 総合お客様サポートサイト

http://panasonic.co.jp/cs/

パナソニック お客様ご相談センター

電話 365日 受付9時〜20時

フリーダイヤル 携帯・PHS OK **0120-878-365**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

音声ガイダンスを短くするには、案内が聞こえたら電話機ボタンの「87」と「130 #」を押してください。
（番号を押しても案内が続く場合は、「＊」ボタンを押してから操作してください。）

■上記番号がご利用いただけない場合 **06-6907-1187**

■FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan

Tokyo (03) 3256-5444 **Osaka** (06) 6645-8787

Open : 9:00 - 17:30

(closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

●修理に関するご相談は・・・

パナソニック 修理サービスサイト

http://club.panasonic.jp/repair/

インターネットでのご依頼も可能です。

パナソニック 修理ご相談窓口

電話

フリーダイヤル 携帯・PHS OK **0120-878-554**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

● 有料で宅配便による引取・配送サービスも承っております。

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

愛情点検 長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を!

こんな症状はありませんか	・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・映像や音声が出ないことがある ・内部に水や異物が入った ・本体に変形や破損した部分がある ・その他の異常や故障がある

ご使用中止	故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

パナソニック株式会社
AVCネットワークス社　ネットワークシステム事業グループ
〒571－8504　大阪府門真市松生町1番15号

VQT3Q58
F0611SY0